

地方公共団体	茨城町
所在地	茨城県東茨城郡茨城町大字小堤1080番地
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	美しい自然を守り、私たちに恵みをもたらす涸沼の保全と賢明な利用、そして、環境保全を図るため、本町の環境将来像でもある「自然を愛し 人も生きものも 安らげるまち」を推進しています。
地域の現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>関東唯一の汽水湖となる涸沼は、スズガモをはじめとする水鳥や絶滅危惧種であるヒヌマイトトンボの生息地であることに加え、ハゼ釣りやキャンプ場など自然体験ができる観光資源も加味したワイズユースの拠点として、平成27年5月にラムサール条約湿地への登録に至りました。</p> <p>水と自然に恵まれた環境をよりよい形で後世に引き継ぐため、環境保全に関する施策やゼロカーボンシティへの取組を加速しています。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>広大な面積を有する水田、しじみ漁等からの水産資源、甘藷や果樹の生産、ローズポークとして名高い畜産資源まで、地域産業の活性と向上を維持する施策として、気候変動への適応や再生可能エネルギーによる地域エネルギー構造改革について迅速に役割を果たしていくこと。</p>
地域が持つ資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが自然に学べる環境を提供する涸沼周辺地域の四季</li> <li>・未来につなげる住みよいまちをつくる人の輪</li> <li>・未来へ躍進し続けるために不可欠となる地域のチカラ</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化による異常気象に備える気候変動適応計画の策定</li> <li>・豊かな自然を守っていくための生物多様性の評価と町全体での行動</li> <li>・SDGsの目標達成に向けた地域ぐるみの協働活動</li> <li>・2050年カーボンニュートラルに向けた脱炭素化の推進</li> </ul>
地域循環共生圏を実践することで想定される効果	<p>(環境)</p> <p>地球温暖化が原因とされる気候変動への適応意識の醸成「2050年カーボンニュートラル」に向かうエネルギー構造の变革。</p> <p>(経済)</p> <p>ラムサール条約登録地湿地として、確かな農林水産資源の販売促進と地産地消の両面を加速させ、循環経済が向上するしくみを形成。</p> <p>(社会)</p> <p>学校におけるSDGs教育の充実、企業のCSRの推進をしていくため、環境フォーラムや脱炭素化を目指す講演会、自然学習会などを実践し、環境意識の向上を図る。</p>



ラムサール条約登録湿地「酒沼」



絶滅危惧種「ヒヌマイトトンボ」



スズガモ



ヤマトシジミ